

高止まりするドル円、 1ドル110円突破はなるか?

ドル円は今月入り後も円安ドル高の流れが続き、一時1ドル109円台に達した。米国でワクチン接種が進むなか、1.9兆ドルの追加経済対策が成立に向かい、米景気回復と物価上昇の加速、その先の金融緩和縮小を織り込んだ米長期金利の急上昇がドルの追い風となった。直近では、欧州でのコロナ感染拡大などを受けて米金利上昇が止まり、ドル円の上昇も一服しているが、108円台半ばで高止まりしている。

今後ドル円は堅調な推移が予想される。米国ではこの先追加経済対策の効果が発現し、物価上昇観測が高まりやすい。米長期金利が上昇余地を試し、ドル円が追随する場面がたびたび発生しそうだ。ただし、FRBはしばらく大規模緩和を継続する方針であり、市場の早期縮小観測の沈静化に努めると考えられる。また、これまで円安圧力となってきた投機筋の円買いポジション解消もかなり進んだことから、当面のメインシナリオとしてはドル高トレンドの形成までには至らず、3カ月後の水準も現状程度に留まると予想している。

ただし、もし米国で大規模なインフラ投資計画(追加財政出動)の早期成立が見込まれる事態となれば、米長期金利が2%を目指し、ドル円も110円の節目を超えると見ている。逆に米国で再びコロナの感染が拡大すれば、米金利の低下を受けてドルは弱含むだろう。

ユーロ円は、米追加経済対策などを受けたりスク選好の円売りなどから、今月半ばに130円台に乗せたが、その後ユーロ圏でのコロナ変異株の感染拡大を受けてユーロが売られ、足元では128円台半ばにある。コロナの動向は読みづらいが、ユーロ圏主要国のワクチン接種率は米国の1/3程度と遅れていることから市場の懸念は熾り、対円でもユーロの重荷になる可能性が高い。3カ月後の水準は現状比でややユーロ安と見ている。

長期金利は、今月上旬に黒田日銀総裁が変動幅拡大を否定する発言をしたことを受けて低下。日銀決定会合での政策修正についても「金利上昇を容認した」とは受け止められず、足元では0.0%台後半に低下している。今後も米長期金利が上昇余地を試し、上昇圧力が波及する場面が想定されるものの、影響は限られ、3カ月後の水準は現状と大差ない水準に留まると見ている。



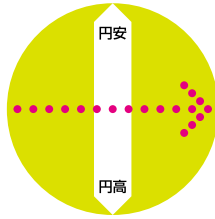
上席エコノミスト **上野 剛志**
うえの つよし | tueno@nli-research.co.jp

1998年日本生命保険相互会社入社、
2001年同財務審査部配属、
2007年日本経済研究センターへ派遣、
2008年米シンクタンク The Conference Boardへ派遣、
2009年ニッセイ基礎研究所。

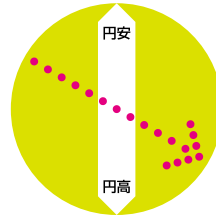


Market Karte

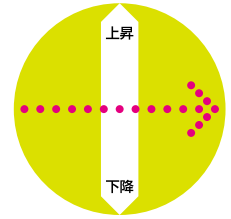
April 2021



ドル円・3カ月後の見通し

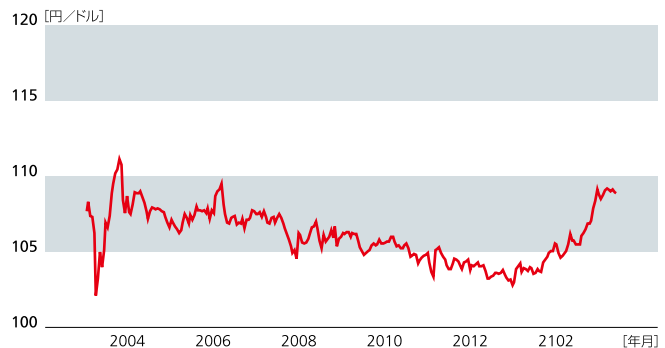


ユーロ円・3カ月後の見通し

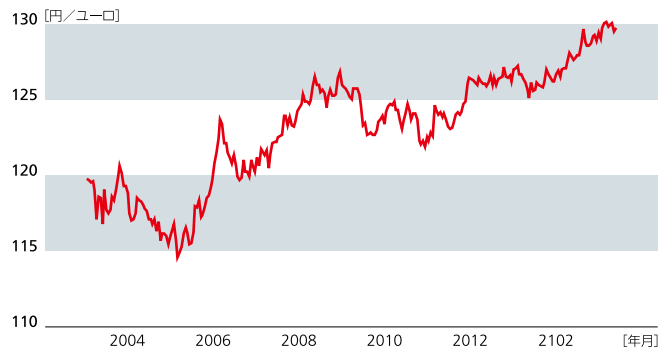


長期金利・3カ月後の見通し

ドル円為替レートの推移 [直近1年] 資料:日本銀行



ユーロ円為替レートの推移 [直近1年] 資料:ECB



長期金利(10年国債利回り)の推移 [直近1年] 資料:日本証券業協会

